故鈴木泰雄さん

お二人が逝去

両市の友好親善に大きく貢献

故西原育子先生

長い間秦野パサデナ友好協会の役員として、両市の友好親善促進にご尽力くださった西原育子先生が昨年 7 月 28 日に、鈴木泰雄さんが 9 月 22 日ご逝去されました。お二人が遺してくださったご功績に感謝し、謹んでお悔やみ申し上げます。

ありし日の鈴木さん

鈴木さん　20 余年、事務局長としてご活躍

鈴木さんは昭和 59 年 5 月、秦野青年会議所の理事長として、仲間 4 名とパサデナ市を訪問、パサデナ青年会議所と姉妹関係の締結を結び、以来しばらく両青年会議所の交流は続きました。更に、昭和 61(1986)年、秦野パサデナ友好委員会が秦野パサデナ友好協会に改称されたころから、平成 18(2006)年まで約 20 年間にわたり、事務局長としてご活躍されました。鈴木さんのパサデナに向ける思いは人一倍強く、ほとばしるような情熱、行動力で力を発揮され、両市の交流活動の礎を築かれました。パサデナ市からの訪問団のホームステイも積極的に引き受けられ、当市を訪問した人たちから「ヤスオ、ヤスオ」と呼ばれ愛されていました。

また、秦野市国際交流協会の会長も務められ、パサデナ市との交流だけではなく、当市の国際交流活動全体にも熱心に取り組まれ、当市在住の外国人のためにも大きな功績を遺されました。

（望月國男）

西原先生　お箏をとおし文化交流にご尽力

↑弾いて、聴いて、お箏を楽しんだパサデナキッズ
←説明される西原先生（手前から 2 人目）

西原先生との出会いは、45 年前に私たち家族が秦野市に引っ越してきた頃になります。母が西原先生のお箏の稽古に通い始めたことがきっかけで、私もお箏を習い始めました。これほど長い間お箏を続けられたのも、先生の優しいお人柄と日本の芸術文化への熱い思いがあったからだと思います。

二人の娘も、同世代の子供たちで構成する和楽器の会糸竹舎「胡蝶組」のメンバーとして、多くの場でお箏を演奏する機会を与えてもらったことで、演奏する楽しさと日本の芸術文化の素晴らしさを知り、様々な経験もさせてもらいました。特に当時、一緒に稽古していた外国語指導助手として来日されていたルース先生のお誘いでパサデナ市へ訪問演奏に行くことが決まってからは、通常の稽古の他に、週 1～2 回学校が終ると皆で夜 10 時過ぎまで合奏練習に励んでいました。時には、箏曲家の宮城道雄先生の目が見えなかったことにちなみ、教室を真っ暗にして楽譜も楽器も見えない中で練習したことは、今ではとても懐かしい思い出です。

パサデナ市には 5 面のお箏を寄贈し、メンバーは数回パサデナ市に訪問し、お箏を演奏してきました。2 回目はスパークス小学校の先生方と一緒に「さくら」を演奏することができました。

今では西原先生に感謝することしかできませんが、お箏で繋がれた縁を大切にし、これからも日本の芸術文化の普及に励んでいきたいと思います。

（相原啓子）